新たなる決意を持って
平成五年度「成人式」

5月3日、憲法記念日に農環センターで、平成5年度の成人式が行われ、新成人の門出を祝いました。

今年の村内関係の新成人は49人の該当があり（ブラジルの方3人を含む）、うち38人が出席されました。また、議会、教育関係者等が来賓として招かれました。

男性は、スーツ、ネクタイ姿で心身を引き締め、女性は色彩豊かな長振袖で会場を華やかに飾っていました。

式典では、村長、副議長、社会教育委員長から将来の村の発展を担う若者への期待、一個人としての社会的責任と権利の重要性等、新成人に対して激励とお祝いの言葉をかけられました。

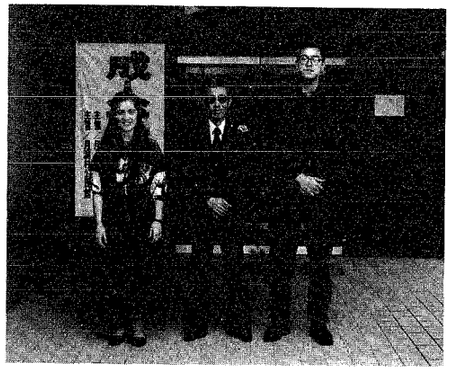
新成人には記念品としてアルバムが贈られ代表の近藤八枝子さんに手渡されました。

また、新成人の代表、細海雄司さんが、成人としての希望と不安に対する決意、そして今日まで育てて頂いた両親への感謝の意を表されました。

式典終了後の祝賀会では、恩師として招かれた大矢、松岡両先生が成長した教え子達との再会を喜び、そして益々の発展を新成人に期待されていました。

※宴会の席では、慣れない着物のため、食べることがままならない分、お互いの晴れ姿をスナップ写真にしようとカメラを持って、今日だけ小股で歩いている人達が目立ちました。

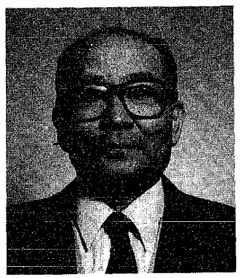
普段は陽気なブラジルの方は、同じ年齢の月潟の若者と親交を深めたいと望んでいたようですが、今日は、新しいレディとジェントルマンを観察する方に回っていました。



▲ブラジルのみなさん

新成人に贈る

根性は努力のつみ重ねから



公民館長
植村　脩

よろこびが　集ったよりも
悲しみが　集った方が
幸せに　近いような気がする
強いものが　集ったよりも
弱いものが　集った方が
真実に　近いような気がする
しあわせが　集ったよりも
ふしあわせが　集った方が
愛に　近いような気がする

この詩は、不慮の事故で、手足の自由を失い、僅かに動く口に筆をくわえて、描き続けている星野富弘氏の作品です。

夜があるから、朝がまぶしいように、失ったとき、始めてその価値に気づかせてもらったと富弘氏はいう。確かに失うことと、与えられることは、となり同志なのかも知れません。

昭和五十八年、詩画集「風の旅」を手にしたとき、私にとって富弘氏との初めての出合いでした。続いて「鈴の鳴る道」の出版、それはそれは感動の連続でした。真実のことばに胸のうずくのを止めることができませんでした。

人生の生き方を、いろいろ気づかせてもらいました。努力することの大切さも教えられました。やさしい心のありがたさも知らされました。

気の遠くなるような根気の連続で描き上げられた作品を一堂に、その富弘美術作が二年前、群馬県東村にオープンしたのである。

さて、今年成人の日を迎えられ、喜びと希望にみちみちた皆さん、誠におめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。新しく成人になられた方へのはなむけのことばとして、いきなり冒頭に富弘氏の詩を取り上げましたが今の時代だからこそ、あえて生命の尊さ、やさしさこそ肝要と考えたからです。

成人式の式典で、成人を代表して細海君から、社会人への第一歩を踏み出す決意がのべられました。

成人になったことは、一人前の社会人として、権利と義務が与えられたと同時に、責任と自覚をも与えられたわけであります。

日本人の平均寿命がのびて人生八十年時代を迎えようとしております。ロングサイズになった人生を、より豊かにより人間らしく生きるには、どうあったらよいかが問われております。

成人の日を迎えたこの大きな節目に、これからの自分の生き方を考えてみることは、ひじょうに意義あることだと思います。

「石の上にも三年」という諺があります。根性は、コツコツと努力するところから生まれるものです。たとえどんな小さなことでも真剣に取り組むことです。そこに、たくましい根性と、よい仕事の結果が必然に生まれてくるものです。

どうか心身共に健全で、精いっぱい元気に、目的をもって努力されるよう希望し、はなむけのことばとします。

言葉は通じなくとも
共通語
ハイ！ピース!!

恩師 松岡先生を
囲んで
５年ぶりの再会。